

【地域の概要】

- 愛知県、長野県に隣接する県南東部に位置し、市域面積のうち森林が78%、農用地が8%を占める
- 耕地面積は3,310ha、このうち担い手集積面積は785ha（23.7%）
- 農業委員会は、農業委員19名（うち女性5）、推進委員22名で構成（任期：令和4年11月14日～令和7年11月13日）
- 5地区の担当区域に分かれ地区委員会を設置し、農地法審議や農地利用最適化推進活動を実施

①取組開始前の状況や課題

地区委員会、総会の運営準備

- 毎月の総会前に地区委員会を開催し、当該地区の審議案件や農地集積・集約化、遊休農地などについて協議
- 円滑な委員会活動ができているが、地区委員会ごとの資料準備、資料・開催案内送付に多くの時間がかかっている
- 申請案件の締切から地区委員会までの期間が短く、委員への情報共有が委員会直前となってしまう

タブレットによる情報共有

- 令和4年11月に委員改選し、新たな任期はタブレット活用に重点
- 国の情報収集等業務効率化支援事業で委員1台ずつのタブレット41台を導入したため、市独自でアプリを活用し、地区委員会や総会運営など委員活動に活用する

②取組内容

タブレット端末設定（令和5年1～2月）

- Googleアカウント、eMAFF現地確認アプリの他、市議会で導入している2つのアプリについて農業委員会でも利用できるよう内部調整

1. ペーパーレス文書共有アプリ「サイドブックススライド本棚」

- 総会や地区委員会などの資料を保存すると、委員がタブレットで閲覧できる
- タブレット上の資料は、紙と同じようにめくることができる
- 会議中は、説明者が説明しているページへ自動で移動し、委員が操作に迷わない
- 資料郵送に比べ、印刷・封入や郵送にかかった時間、労力を大幅カット

2. ビジネスチャットアプリ「LINEWORKS」

- 委員1人ずつアカウントを作成し、総会や地区委員会ごとにグループ設定
- 会議開催通知をチャット送信（郵送廃止）
- スマホでLINEを利用する委員も多く、戸惑うことなく利用できた
- 委員1人ずつの既読確認ができ、未読委員のみ個別連絡で確認事務軽減

タブレット操作研修会・貸与（令和5年2月）

- 2会場に分かれ、現地確認アプリ、サイドブックス、LINEWORKSの操作研修実施
- 委員に貸与し、日常利用を開始

③今後の展開と方向性

- 徐々に利用になれていき、令和5年度からは利用状況調査や、地域計画・目標地図素案作成に繋がる農地の出し手・受け手の意向把握など活用を高めていく

「農業委員会活動へのタブレット端末活用」



サイドブッククラウド本棚
地区委員会・総会ごとのフォルダに資料保存

